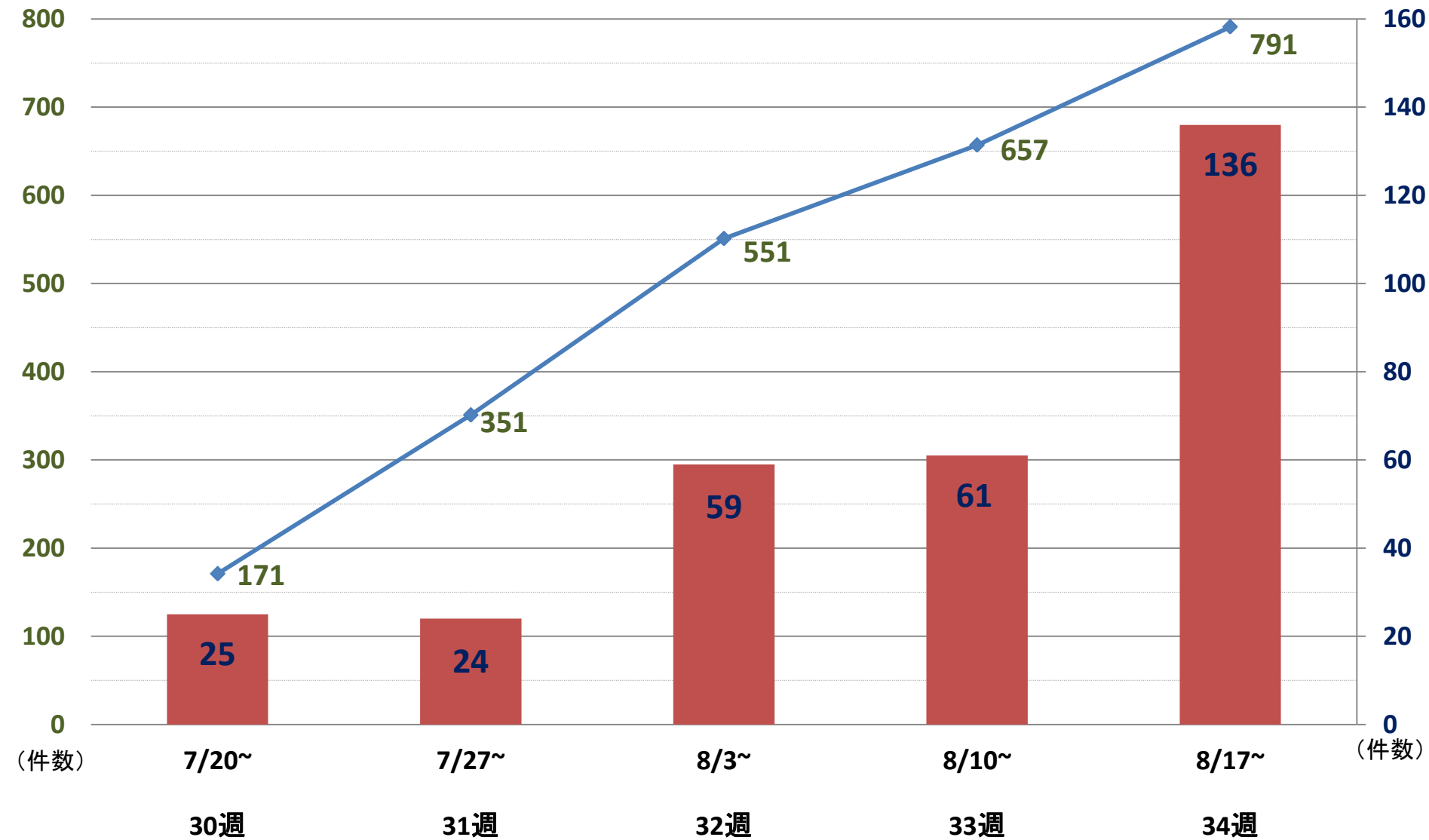


1-(1)-2 クラスターサーベイランス報告の週別状況（34週まで）



■ 臨時休業を要請し実施した施設総数

◆ 新型インフルエンザ検査が陽性となった集団感染の発生件数

【目的】

学校におけるインフルエンザの流行状況を把握するため、インフルエンザ様症状の患者の発生による管内の幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校の休校数等を把握する。

【概要】

(幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校と保健所)連携
インフルエンザ様症状の患者による臨時休業の状況把握



(保健所)

把握した1週間分(日曜日から土曜日まで)の情報を
翌週月曜日までに都道府県等に報告

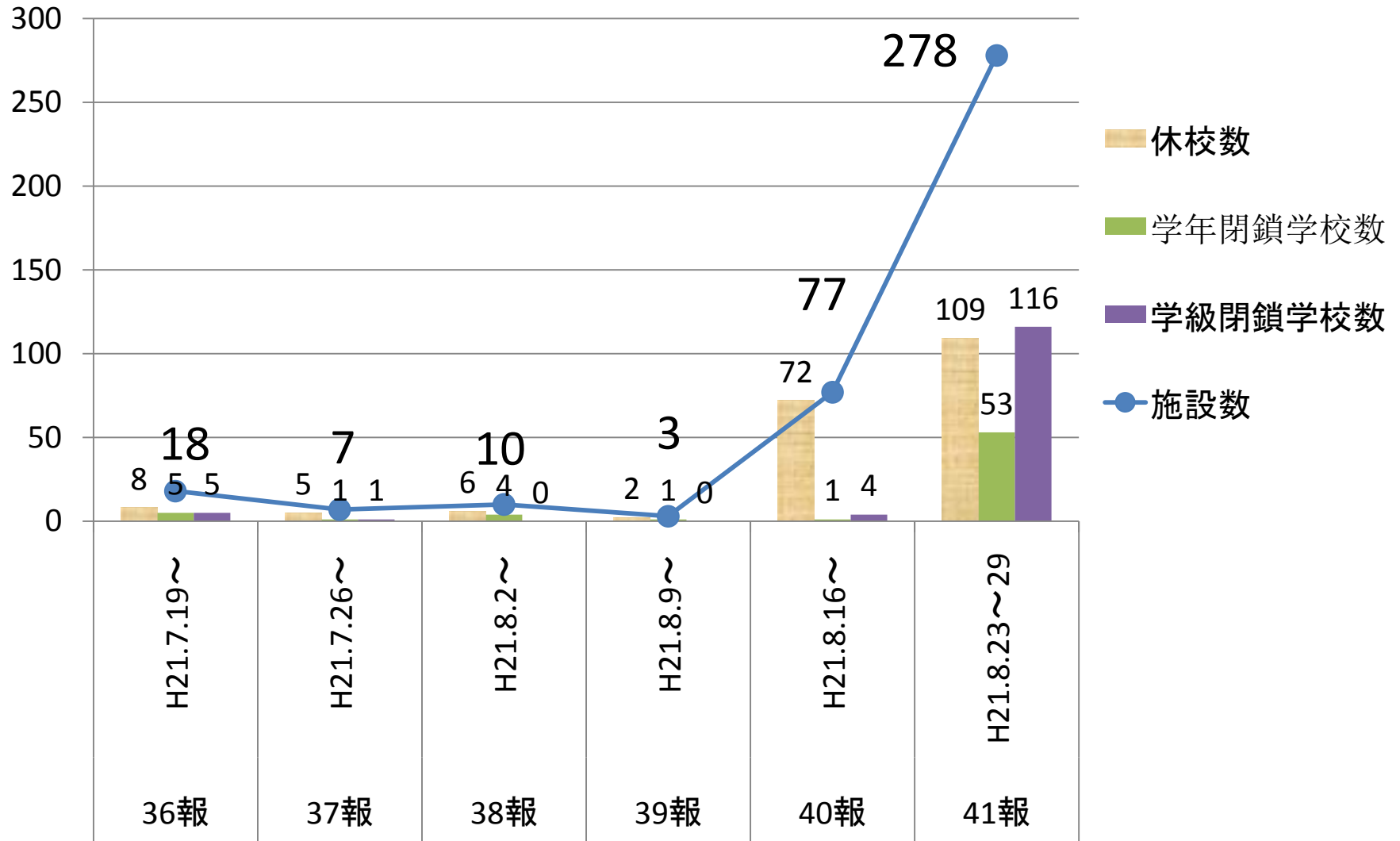


(都道府県等)

入手情報を速やかにNESIDにより厚生労働省に報告



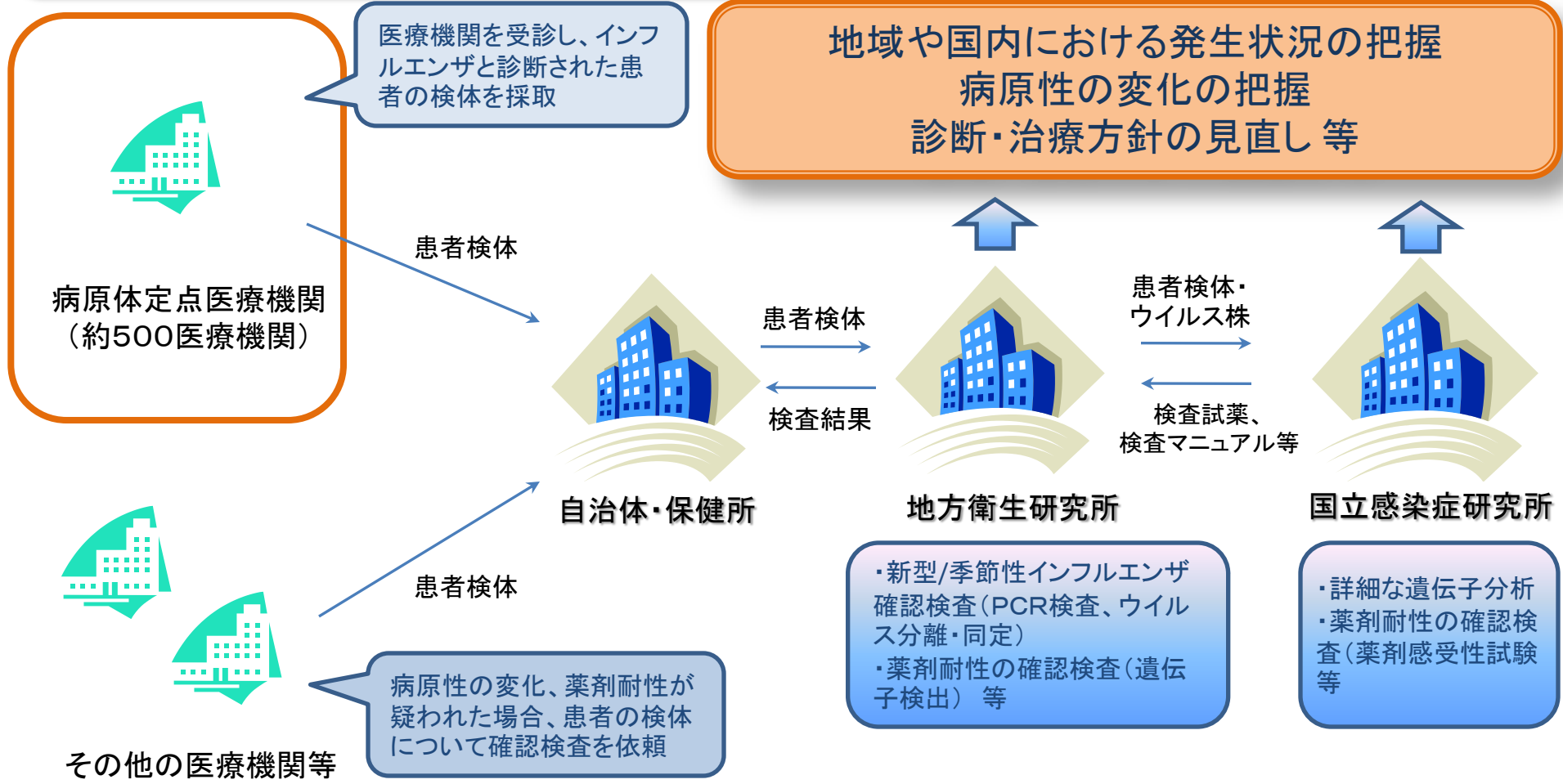
(施設数)



ウイルスサーベイランス

目的

- インフルエンザの型・亜型を調べることにより、流行しているインフルエンザ全体における新型インフルエンザ(A/H1N1)の割合を評価
- ウイルスの抗原性、薬剤感受性等を調べ、ウイルスの性状変化を把握



型・亜型の同定

患者から採取した検体のインフルエンザウイルスの型・亜型を調べ、自治体・国において集計

- ⇒ 現在流行しているインフルエンザの大部分が新型インフルエンザであると推定
- ⇒ インフルエンザ様症状の者を把握し、新型インフルエンザとみなした公衆衛生、医療対応の実施

薬剤感受性の確認

予防投与中の発症等、薬剤耐性が疑われた患者の検体のウイルスについて、遺伝子分析、薬剤感受性試験を実施

- ⇒ 国内において、オセルタミビル(商品名:タミフル)耐性の新型インフルエンザウイルス5例を確認
 - ※病原性の変化、周囲への感染拡大は認められず
 - ※ザナミビル(商品名:リレンザ)に対する感受性あり
 - ※世界では、12例のタミフル耐性ウイルスが検出 (WHO 8月21日公表)
- ⇒ 地方衛生研究所と国立感染症研究所が連携した監視を行い、国内外の情報収集を行いながら、薬剤耐性ウイルスの発生及び感染拡大を早期に把握

抗原性の変化の確認

一部の患者の検体について、詳細なウイルス分析を実施中